

挨拶

「おはようございます」「こんにちは」と日常であいさつ



日本では、
こたつにみかん
行んでは、
こたつにいちじく
若住耳

を交わしますが、この「挨拶」も仏教用語です。といつても、現代とはいささか意味が異なりますが。

「挨拶」は押す、「拶」はせまるの意があり、押し迫るの意味があります。特に、禅において一挨拶といひ、師匠と弟子がすれ違う時に、不意に師匠が質問をする。それに対して弟子が答える。いわゆる禅問答がなされる。これを挨拶といつていたそうです。つまるところ、相手の意を探るといふ意味でしょうか。

あるアメリカの心理学者の実験で、被験者がある部屋に入れ、隣の部屋で誰かが物音を立てる。この時に、隣の部屋で音を出している人が、知らない人だった場合と知人だった場合と親族、恋人とではストレスは前者の方が多く、後者はより少なかったそうです。

知人というだけでもストレスは減少する。知人とは挨拶する仲でも成り立つと解釈すると、挨拶を交えていくだけでもストレスが減少する。挨拶の心理効果は計り知れないかもしれません。



身近な仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

阿吽

両者の息が合う事を「阿吽の呼吸」といいます。



阿吽とは、サンスクリット(古代インド語)の最初の「a」と最後の「hum」が、合わさった語です。ん?どこかできいたような...。そうです。日本語の並びは、サンスクリットを習いに行っているのです。物事の始まりと終わりを表す言葉が「阿吽」です。

阿吽は形として、あらゆるところにあります。例えば、神社の狛犬、金剛力士像、蠟燭立の鶴などは、片方が口を開き、片方は口を閉じています。前者を「阿形」、後者を「吽形」といいます。おつと歌舞伎にも出てきました。歌舞伎十八番『勧進帳』の一説です。

富樫... 出で入る息は
弁慶... 阿吽の二字



と、ここに「阿吽」が出て来きます。お互いの息が一つとなる。これからますます異国の人との触れ合いが訪れます。少しでも「阿吽」を意識することができれば、平和に過ごせるでしょう。